

### 諏訪市の人口減少を地区別に考察

諏訪市では11年前に較べて3,219人、6.0%もの人口減少があった。上諏訪地区は、かつての小和田水田地域で人口増が進んだ島崎1、2、渋崎、杉菜池、城南、みどりの6町内会を「西部振興地」とし、それ以外の60町内会を「東部市街地」として2つに分けて考察を試みた。

#### 1. 上諏訪東部市街地は人口の急減地域

上諏訪地区全体の人口のピークは昭和40年で31,276人、その多くが「上諏訪東部市街地」に住んでいた。それが46年後の平成22年には14,230人へと半減してしまった。しかも、最近11年間で2,923人、17.0%という大きな人口減少があり、諏訪市の人口減少はこの上諏訪東部市街地の人口減少が中心となっている。この地域は平成24年には高齢者比率が36.2%という超高齢社会でもあるので、これからも高齢化と人口減少が年々進むと考えられる。

#### 2. 四賀地区でも大きな人口減少があった

最近11年間で948人、11.0%という大きな減少があった。高齢者が多く自然減のあることや事業所に変化のあったことが要因と思われる。

#### 3. 上諏訪西部振興地は人口の急増地域

洪水被害を機に耕地整理されたかつての小和田水田地域は、新たに住宅やアパートの建設に加え大型商業施設が次々と進出して、新たな商業中心地域を形成している。諏訪赤十字病院を中心とした住宅化も進んでいる。この11年間に655人、12.1%という大きな人口増加があった。この地域は市の中心にあるので、住宅と商業施設の集積はまだ進むと考えられる。

#### 4. 中洲地区の増加傾向は穏やかになった

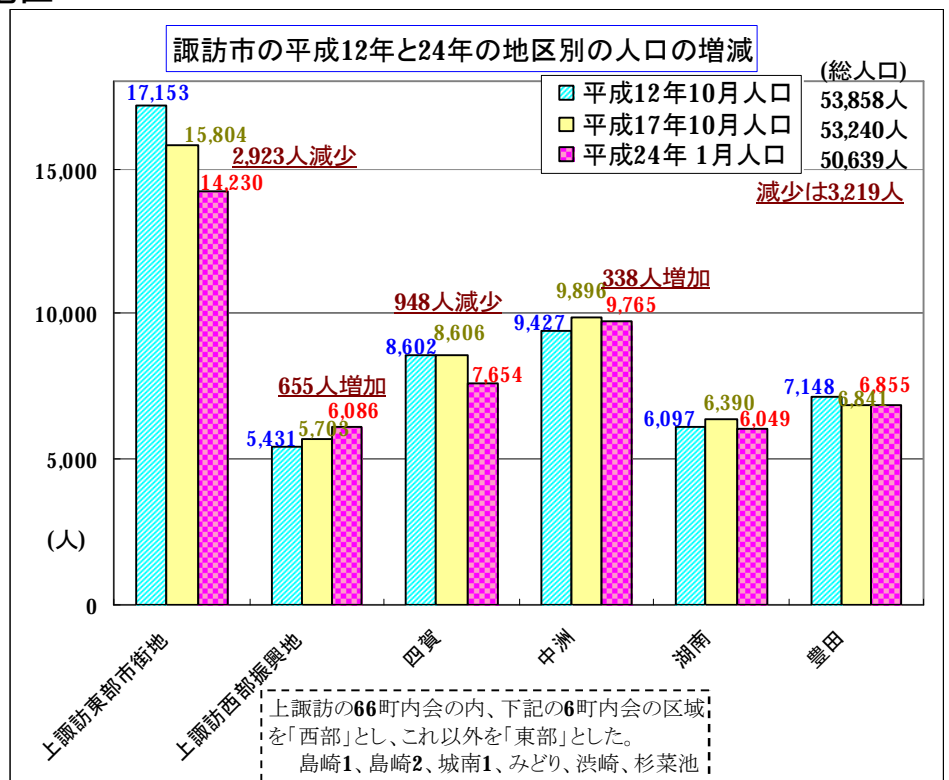
農業地域であった中洲地区の昭和40年の人口は2,922人であった。中央道のインターチェンジの開設により、商業施設や住宅、アパートが進出し一大商業地域となった。平成22年の人口9,765人はこの46年間に3倍以上に人口が膨れたことになる。この11年間には338人、3.6%の人口増加がみられたものの、増加傾向は随分穏やかになった。中洲は諏訪圏域の要の位置にあるので、この傾向がしばらくは続くと考えられるが、平成24年には微減している。

#### 5. 微減の湖南、豊田地区

##### 【11年間で】

山際の鉄道・国道沿線  
東部市街地と四賀で  
約4,000人の減少

平坦なかつての水田地帯  
西部振興地と中洲で  
約1,000人の増加



## 6. 昭和40年から平成24年までの、46年間の各地区の変化

(1) 総人口は昭和40年の46,276人から平成24年の50,639人へと4,363人9.4%の増加

市の人口のピークは平成13年の53,945人で、平成24年はこれより3,306人減少した。

(2) 上諏訪東部市街地の人口は減少し続け半減した

上諏訪地区全体の人口のピークは31,276人の昭和40年で、諏訪市人口の68%と3分の2を占めていた。この時の上諏訪東部市街地の人口は28,981人で上諏訪地区全体の93%を占めていた。しかしその後は人口が減少し続け46年後の平成24年には14,230人へと半減した。

(3) 旧村部の4地区の人口はいずれも増加したが、特に中洲地区が激増した

平成24年には4地区の人口が市全体に占める比率が60%となり、46年前の上諏訪地区の占める比率と逆転した。なかでも中洲地区は3.34倍と激増した。

(4) 高齢化の進行

国連やWHOによると高齢者比率が21%を超えると超高齢社会と定義しているが、昭和40年に7.6%であった高齢者比率が、平成24年には25.2%という超高齢社会になった。なかでも上諏訪東部市街地は36.2%という高率でこれからも更に高くなると推計される。

### 【46年間の増加の倍率】

豊田地区	2.16倍
湖南地区	1.41倍
中洲地区	3.34倍
四賀地区	1.66倍
上諏訪西部振興地	2.65倍
上諏訪東部市街地	0.49倍

### 【各地区の占める比率】

